

報道発表資料
平成26年3月31日
気象庁

「火山噴火予知連絡会火山活動評価検討会報告書 ー噴火現象の即時的な把握手法についてー」の公表について

火山の監視において、噴火現象を即時的に把握することは重要です。特に、爆発的噴火に伴って弾道を描いて飛散する「大きな噴石」の到達範囲を速やかに把握することは防災上重要であり、また噴火後に風下の広い地域で落下する風の影響を受ける「小さな噴石」の落下範囲について即時的な情報提供が求められています。

火山噴火予知連絡会火山活動評価検討会では、噴火開始後の早い段階で「大きな噴石」の到達範囲や「小さな噴石」の落下範囲を予測する手法、「噴煙の高さ」や「火山灰総放出量」を推定する手法等、噴火現象の即時的な把握のために、来年度運用開始を予定している量的降灰予報等気象庁の火山監視業務での活用（既存の技術で対応可能な改善を含む）を念頭に、大学や気象庁以外の機関の研究成果等も踏まえて、検討を行いました。

今般、検討結果を「火山噴火予知連絡会火山活動評価検討会報告書 ー噴火現象の即時的な把握手法についてー」（概要：資料1、本文：資料2）として取りまとめましたので、お知らせいたします。

<添付資料>

資料1：火山噴火予知連絡会火山活動評価検討会報告書 ー噴火現象の即時的な把握手法についてー（概要）

資料2：火山噴火予知連絡会火山活動評価検討会報告書 ー噴火現象の即時的な把握手法についてー

本件に関する問い合わせ先：

気象庁地震火山部火山課 03-3212-8341 内線 4527